

題材内容一覧表

付 観点別評価規準例

教科書の各題材の活動内容や育てたい力、観点別評価規準例を示しました。
教科書をベースに題材を組み立てる際に、ねらいや観点別評価規準を設定するためのポイントとして、
参考にいただければと思います。

	ページ・ 題材名	活動内容や育てたい力	題材の目標・観点別評価規準例	学習指導要領 との関連	
			◎：題材の目標 関：美術への関心・意欲・態度 発：発想や構想の能力 技：創造的な技能 鑑：鑑賞の能力	A 表現	B 鑑賞
はつごころ	P.5～7 人はなぜ、描き、 つくるのだろうか？	作品や作家の言葉から美術の多様性に気づくとともに、「人はなぜ、描き、つくるのか」という問いについて考える。互いの意見について話し合う活動を通して、美術に対する自分の見方や考え方を育てる。	◎「人はなぜ、描き、つくるのか」について、さまざまな意見を基に、自分なりに考えてみよう。 関：美術について自分なりに考えようとしている。 鑑：作品や作者の言葉を基に話し合い、理解を深めている。		アイ ウエ
絵画・彫刻	●表現 P.8～9 身近なものを 描く	いつも何気なく目にしている身近なものを見つめ直し、描く方法や材料を選んで、身の回りに潜む美しさやおもしろさを絵で表現する。対象の見方を工夫する力、美しさやおもしろさを感じ取り、主題をあらわすのに適した方法や材料を選んで描く力を育てる。	◎いつも何気なく目にしているものを見つめ直し、描く方法や材料を選んであらわしてみよう。 関：身近なものを観察し、美しさやおもしろさを感じ取ろうとしている。 発：見方を工夫し、感じ取ったことを基に構想を練っている。 技：主題をあらわすのに適した方法や材料を選んでいる。 鑑：互いの作品を鑑賞し合い、根拠を基に話し合っている。	(1)アイ ウエ	ア
	●表現 P.10～11 植物を描く	植物の観察を通して感じ取ったことから主題を生成し、色彩や構図、描き方を工夫して絵で表現する。作家の手法も参考にして見方や手法の幅を広げ、植物の造形や色の美しさを自分なりの表現に生かす力を育てる。	◎植物の魅力をつかえ、構図や描き方を工夫して、絵にあらわしてみよう。 関：植物を観察し、美しさや魅力を感じ取ろうとしている。 発：観察を通して感じ取ったことから主題を生成している。 技：水彩絵の具などの使い方を工夫して描いている。 鑑：植物の美しさや魅力をあらわす工夫を感じ取っている。	(1)アイ ウエ	アウ
	●表現 P.12～13 風景を描く	思い出のある場所や心ひかれる風景を見つけ、その印象をスケッチするなどして絵の構想を練る。また、作家作品の、視点によって変わる印象やさまざまな工夫に着目し、自分の表現に生かす。主題をあらわすのに効果的な構図や視点など、表現方法を工夫して描く力を育てる。	◎思い出のある場所や心ひかれる場所の風景を、構図や視点を工夫してあらわそう。 関：心ひかれる風景を見つけ、表現しようとしている。 発：主題をあらわすのに効果的な構図や視点で、構想を練っている。 技：明暗や色づかいを工夫して主題をあらわそうとしている。 鑑：風景の構図や視点、表現の意図や工夫を感じ取っている。	(1)アイ ウエ	アウ
◆鑑賞 P.14～15 作品鑑賞室 穏やかな光の中で	フェルメール「絵画芸術の寓意」の鑑賞を通して、主体的に鑑賞する態度を身につける。多様な見方や解釈に触れ、自分の考えを振り返ったり、他の生徒の考えに共感したりして、作品の見方を深める。二つのQを手がかりに、絵に込められた意味をより深く考える。	◎描かれた情景と、光や陰影の表現に注目し、感じたことや考えたことを話し合ってみよう。 関：描写を基に想像し、意味を考え話し合おうとしている。 鑑：二つのQや意見交流を通して作品の理解を深めている。		アウ エ	
◆鑑賞 P.16～17 見る・知る・学ぶ 線遠近法の発展	西洋美術における代表的な空間表現としての線遠近法の歴史とその原理を知る。線遠近法によって描かれた絵画作品の鑑賞を通して奥行きをあらわす表現の効果を理解し、自分の表現に生かそうとする態度を養う。	◎線遠近法の歴史を知るとともに、その仕組みを知り、表現に生かそう。 関：作品を比較し線遠近法の発展を理解しようとしている。 鑑：線遠近法の歴史や原理を知り、効果を感じ取っている。		アウ エ	

<p>●表現 P. 18～19 版の表現</p>	<p>木版画の作品を鑑賞し、版画ならではの表現や味わいに関心をもつ。1版1色摺と多色摺の木版画を鑑賞して、それぞれの特徴を知り、版画制作の流れを学ぶ。彫りの効果と色彩の効果を考えながら構想を練り、表現する力を育てる。</p>	<p>◎木版画の味わいに注目し、彫りや色彩の効果を考えながらあらわそう。 関：版画ならではの表現や味わいに関心をもっている。 発：彫りの効果と色彩の効果を考えながら構想している。 技：彫りと色彩、摺りの効果ができるように工夫している。 鑑：彫りと色彩、摺りの効果など、版画の特徴を味わっている。</p>	<p>(1)アイ ウエ</p>	<p>アエ</p>
<p>●表現 P. 20～21 想像してあらわす</p>	<p>想像の世界に誘われる作品を鑑賞し、心の深層にあるイメージをよび起こす表現に関心をもつ。夢や想像から、あるいはデカルコマニーなどで偶然にできる模様や形から発想し、内面的なイメージを豊かに表現する力を育てる。</p>	<p>◎さまざまな技法を用いて、夢や想像の世界を表現してみよう。 関：心の深層のイメージをあらわす作品に関心をもっている。 発：夢や想像、偶然の形などから主題を生成している。 技：技法を工夫して不思議な世界を表現している。 鑑：想像の世界を楽しみ、意図や表現の工夫を感じ取っている。</p>	<p>(1)アイ ウエ</p>	<p>ア</p>
<p>●表現 P. 22～23 不思議な空間をあらわす</p>	<p>教科書の作品を鑑賞し、ユーモアや戸惑い、驚きなどをもたらす遊び心あふれる表現に関心をもつ。視覚のトリックの仕組みや効果を知るとともに、それを活用する力を育て、現実にはあり得ない不思議な空間を絵の中につくり出すことを楽しむ態度を養う。</p>	<p>◎形や色を工夫して、見る人を驚かせるような、遊び心あふれる表現に挑戦しよう。 関：視覚のトリックを利用した作品に関心をもっている。 発：ユーモアや驚きを感じさせるように構想を練っている。 技：視覚のトリックを効果的に用いて表現している。 鑑：視覚のトリックの工夫や効果を味わっている。</p>	<p>(1)アイ ウエ</p>	<p>ア</p>
<p>●表現 P. 24～25 自己を描く</p>	<p>単に自分の外観を写すのではなく、自分の内面を見つめ、自分とはどのような人間であるのかを自問自答して自画像を描く。多くの画家たちが取り組んできた自画像を鑑賞し、自分らしい表情やしぐさの捉え方、描き方の工夫を考えて自己を表現する力を育てる。</p>	<p>◎自分を見つめ直して浮かぶイメージを、自画像にあらわしてみよう。 関：自己を見つめ、自分らしさを見つけようとしている。 発：自己を探索し、自分の特徴をまとめ主題を生成している。 技：表情やしぐさ、色づかいなどを工夫して描いている。 鑑：自画像を描く多様な方法や工夫について話し合っている。</p>	<p>(1)アイ ウエ</p>	<p>ア</p>
<p>◆鑑賞 P. 26～27 作家の生涯と作品 パブロ・ピカソ</p>	<p>制作中のピカソの写真を鑑賞し、眼光の鋭さや表情、描き姿などから、表現に打ち込む作家の魂に触れる。作家の言葉や解説を読み、ピカソの生涯と作品を通して、作品に込められた情熱や表現の工夫を知る。</p>	<p>◎ピカソの生涯と作品を通して、作品に込められた情熱や表現の工夫を感じ取ろう。 関：解説などを読み、ピカソの作品を理解しようとしている。 鑑：ピカソの作品に込められた情熱や工夫を感じ取っている。</p>		<p>アエ</p>
<p>●表現 P. 28～29 土から生まれる 彫刻</p>	<p>太古から人間は土で生き物の姿を形づくってきたことに思いを馳せて作品を鑑賞し、生命感や立体感、量感を土であらわす方法やその工夫を知る。制作に際しては、ただ形態を捉えるだけでなく、対象のもつ存在感や生命の力などを工夫してあらわす力を育てる。</p>	<p>◎立体感や量感、対象から感じ取った生命の魅力を粘土であらわそう。 関：土で対象の姿をつくることに興味をもっている。 発：対象の形態、生命力などを感じ取り主題を生成している。 技：立体感や量感を土の特性を生かしてあらわしている。 鑑：作品から立体感や量感、生命の力などを感じ取っている。</p>	<p>(1)アイ ウエ</p>	<p>ア</p>
<p>●表現 P. 30～31 塊から彫り出す</p>	<p>作家作品の鑑賞を通して、最初に仕上がりのイメージをもつことの大切さを知る。また、作家の手法や作品から、彫り跡や、木や石の質感を残しながら形を生み出す手法を学ぶ。木や石などの材料を使って生き生きとした形を彫り出す力を育てる。</p>	<p>◎木や石などの材料を使って生き生きとした形を彫り出そう。 関：木や石にイメージを宿らせ、形を彫り出そうとしている。 発：明確な仕上がりのイメージをもって構想している。 技：彫り跡や木や石の質感を生かし、効果的に表現している。 鑑：塊から彫り出された形の特徴を捉えて味わっている。</p>	<p>(1)アイ ウエ</p>	<p>ア</p>
<p>●表現 P. 32～33 場所との対話</p>	<p>町の中や自然の中に置かれた彫刻が、周囲の空間や環境との調和を意識してつくられていることを知る。また、具体的な場所を想定し、その場所の魅力を引き立てる野外彫刻を発想し、厚紙などでその模型をつくってみる。</p>	<p>◎設置する場所や周囲の環境との調和を意識して、彫刻作品の構想を練ろう。 関：彫刻と周囲の環境との関わりを考えようとしている。 発：設置する場所との関わりから発想し、構想している。 技：場所を意識し、形や色、量感などを考えながらあらわしている。 鑑：空間と関わる彫刻の意義について、考えをもっている。</p>	<p>(1)アイ ウエ</p>	<p>アウ</p>
<p>◆鑑賞 P. 34～35 作品鑑賞室 祭りの喧騒</p>	<p>「洛中洛外図屏風」を見て、描かれている人物の表情やしぐさ、衣装や持ち物などから、声や音、出来事を想像し、考えたことを話し合う。表現方法の工夫やおもしろさに着目し、日本の美術の特徴についての理解を深める。</p>	<p>◎表現方法のおもしろさや工夫に注目し、日本の美術の特徴について考えてみよう。 関：表現のおもしろさや工夫を感じ取ろうとしている。 鑑：日本美術の特徴を捉え、美意識を感じ取っている。</p>		<p>アエ</p>

(絵画・彫刻)	◆鑑賞 P. 36～37 見る・知る・学ぶ 日本美術の大胆な 造形感覚	日本美術の大胆な造形感覚は、現代の美意識ともつながりがあることを感じ取り、日本文化の伝統に対する愛着と理解を深める。大胆にあらわされた作品を鑑賞し、時代を超えて受け継がれてきた美意識を自分の表現に生かそうとする態度を養う。	◎日本美術の造形表現の特徴を知り、現代にもつながる美意識を感じ取る。 関：作品を見て、日本美術の特徴を考えようとしている。 鑑：日本美術の特徴について話し合い、理解を深めている。		アウ エ
	●表現 P. 38～39 文字とデザイン	書体による印象の違いや書体ごとの特性を理解し、形や色づかいなどに注目して生活の中で見かける文字のデザインを集め、自分の表現に生かす。ビジュアルデザインの重要な要素である文字について考え、情報やイメージを効果的に伝える文字をデザインする力を育てる。	◎さまざまな文字のデザインの工夫を知り、情報やイメージを効果的に伝える文字を考えよう。 関：文字のデザインの工夫について考えようとしている。 発：情報やイメージを効果的に伝える文字を考えている。 技：形や色づかいなどを工夫し、効果的に表現している。 鑑：文字のデザインの工夫や効果について話し合っている。	(2)アイ ウエ	アウ エ
	●表現 P. 40～41 ポスターの デザイン	さまざまなポスター作品を鑑賞し、メッセージを伝える工夫について話し合うとともに、社会の中でのポスターの働きについて考え、効果的なポスターの表現方法を理解する。スケッチを重ねて構想を練る大切さを知り、図柄や構図、配色を工夫して表現する力を育てる。	◎テーマにふさわしい表現方法や図柄を考え、ポスターをデザインしよう。 関：テーマに合ったポスターの表現を考えようとしている。 発：スケッチを重ね、ポスターの構想を練っている。 技：視覚的な効果を考え、図柄や構図、配色を工夫している。 鑑：ポスターの効果的な表現方法について話し合っている。	(2)アイ ウエ	アウ
	●表現 P. 42～43 情報伝達の デザイン	マークやピクトグラムを鑑賞し、情報を視覚的に伝える働きや社会的意義について理解する。伝えたい情報を整理したり、単純な形や色を用いたりして、学校など身近な場所で使うマークやピクトグラムを工夫してつくる力を育てる。	◎伝えたい情報を整理し、マークやピクトグラムのデザインをしよう。 関：マークやピクトグラムの働きや意義に関心をもっている。 発：情報を整理し、単純な形や色を用いて構想を練っている。 技：視覚的にわかりやすく美しい形や色を工夫している。 鑑：マークやピクトグラムの働きや役割を話し合っている。	(2)アイ ウエ	アウ
	◆鑑賞 P. 44～45 暮らの中での文様	幾何学図形の組み合わせによる文様を中心に、地域それぞれの伝統的な文様を鑑賞し、その特徴を考える。生活空間の中にあるさまざまな道具、衣服などの装飾を見つめ直し、生活を彩る文様の価値に気づくとともに、身の回りの文様から発見したことを表現に生かす態度を養う。	◎それぞれの地域の文様の形や色の工夫を鑑賞し、自分の表現に生かそう。 関：地域ごとの伝統的な文様の特徴を考えようとしている。 鑑：地域ごとの伝統的な文様について話し合っている。		アウ エ
	●表現 P. 46～47 紙を生かした デザイン	作品や作家の手法の鑑賞を通して、加工しやすい紙の特性を生かした発想を理解する。アイデアスケッチを重ねつつ、実際に折る、切る、曲げるなどさまざまな加工を試行錯誤して、紙という身近な素材を生かしてデザインする力を育てる。	◎紙の感触や形の変化を確かめながら構想を練り、紙の特性を生かしたデザインをしよう。 関：紙の特性を考え、さまざまな加工方法を試そうとしている。 発：紙の特性を生かし、使う人のことを考え構想を練っている。 技：イメージを具体化する折り方や切り方を工夫している。 鑑：紙の特性を生かしたデザインのよさを味わっている。	(2)アイ ウエ	アウ
	●表現 P. 48～49 手で使う道具の デザイン	手で使う道具のデザインを鑑賞し、機能的な形と美しさの調和を理解する。箸や目覚まし時計のデザインを比較し、それぞれの工夫や特徴を考える。実際に自分の手で感触を確かめながら構想を練り、デザインを工夫する力を育てる。	◎手で使う道具の基本的な形と美しさの調和を考え、デザインを工夫しよう。 関：手で使う道具のデザインについて理解しようとしている。 発：使う人の気持ちを考えて構想を練っている。 技：扱いやすさや心地よさを試しながら工夫している。 鑑：手で使う道具の形と美しさの調和について話し合っている。	(2)アイ ウエ	アウ
	●表現 P. 50～51 素材を生かす デザイン	素材の特徴を生かしたデザインを身の回りから探したり、話し合ったり、新しく考えたりして、素材と用途の関係について理解を深める。デザインを考える上で、使用する目的や条件に応じて素材の特徴を生かすことの大切さを理解し、素材の特徴を生かしてデザインする力を育てる。	◎使用する目的や条件に応じて、素材の特徴を生かすデザインを考えよう。 関：生活の中の、素材を生かしたデザインに関心をもっている。 発：使用する目的や条件に応じ、素材を生かして発想している。 技：素材の特徴を生かして表現している。 鑑：目的や条件に合った素材を選ぶ大切さを話し合っている。	(2)アイ ウエ	アウ
	◆鑑賞 P. 52～53 作家の生涯と作品 チャールズ& レイ・イームズ	イームズ夫妻邸の写真や作品を鑑賞し、二人の制作への思いや表現の工夫について感じ取ったことを話し合う。イームズの言葉や解説を読み、二人の生涯と作品を通して、デザインに対する考え方や作品に込められた意図、表現の工夫などを知る。	◎二人の生涯と作品を通して、製品に込められた意図や工夫などを感じ取ろう。 関：イームズ夫妻の作品を理解しようとしている。 鑑：イームズ夫妻が製品に込めた意図や工夫を理解している。		アイ ウエ

映像メディア表現	●表現 P. 54~55 時間を切り取る	時間を切り取ったかのような写真作品を鑑賞し、動きの瞬間を捉える手法と効果について理解する。一瞬の動きを捉える写真の特性を生かし、身の回りの出来事を撮影し、シャッタースピードによって変化する効果を生かして表現する力を育てる。	◎写真の特性を生かして、身の回りの出来事の一瞬を捉えてみよう。 関：瞬間を捉える写真に関心を持ち、撮影しようとしている。 発：さまざまな撮影方法を試し、構想を練っている。 技：シャッタースピードの撮影効果を生かしている。 鑑：動きの瞬間を捉える手法と効果を味わい、話し合っている。	(3)アイ ウエ	アイ エ
	●表現 P. 56~57 日常を捉える	人や身近な物などをレンズを通して見つめ、新たな発見を写真であらわす。友人や家族のその人らしさを捉えるために、写す角度や距離、被写体の画面への収め方などを工夫したり、身近な物をテーマに応じて撮影したりして、写真で思いや考えを表現する力を育てる。	◎身近な自然や生活の中から感じ取ったことを基に、写真で思いや感動を表現しよう。 関：被写体の特徴を捉え、写真で表現しようとしている。 発：レンズを通して被写体を見つめ、主題を発想している。 技：写す角度や距離などを工夫して撮影している。 鑑：被写体の特徴をあらわす工夫について話し合っている。	(3)アイ ウエ	アイ
	●表現 P. 58~59 絵や写真を動かす	パラパラアニメやコマ撮りアニメ、驚き盤などの手法で人や物を動かしたり変化させたりするアニメーションをつくる。アニメーションの動く原理や、絵や写真を動かす仕組みを理解し、表現方法や編集を工夫して表現する力を育てる。	◎アニメーションの仕組みを理解し、動かしたいものの動きや変化をあらわそう。 関：絵や写真を動かす表現に関心をもっている。 発：動きのおもしろさや物語などを考え、構想を練っている。 技：絵や写真を用いて、動きを工夫して表現している。 鑑：動きや変化など、アニメーションの工夫を味わっている。	(3)アイ ウエ	アイ ウ
	●表現 P. 60~61 映像が作り出す空間	空間に映像を映し出し、空間全体を作品にする表現方法を知る。目で見える視覚体験から、空間的に体感するおもしろさへと広がる映像表現の特徴を生かした映像をつくり、投影方法や上映場所などさまざまな工夫をする姿勢を養う。	◎プロジェクターを使って、映像による空間をつくり出そう。 関：映像が作り出した魅力的な空間に関心をもっている。 発：投影する場所との関係を考え、映像の構想を練っている。 技：効果的な投影方法を工夫して表現している。 鑑：映像を空間に投影する方法や効果を味わっている。	(3)アイ ウエ	アイ ウ
	●表現 P. 62~63 メッセージを伝える映像	テレビコマーシャルやミュージックビデオの制作手法に触れ、メッセージを伝える効果的な映像の表現方法や編集について理解する。映像は場面の並べ方で印象が変わることを理解し、誰に何を伝えるかを考えて、絵コンテなどで構想する過程を大切に、効果的に表現する力を育てる。	◎メッセージを伝える効果的な映像表現や編集を工夫しよう。 関：メッセージを伝える映像の編集に関心をもっている。 発：誰に何を伝えるかを考え、映像の効果を意識して構想を練っている。 技：絵コンテを基に効果的に映像の編集を工夫している。 鑑：メッセージを伝える効果的な映像や編集について話し合っている。	(3)アイ ウエ	アイ ウ